



長年宗道師評

衆議判句合

題

鴛鴦
今月

山茶華
散

恒念部

修之

負我



山崎の住む人今も事や花の枝

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— 山崎の國のあり

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

ニ

お春

東林

六景地巻

六景地巻

山崎の住む人今も事や花の枝

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

—— やつとてかきつらぬ山の家

ニ

晴霞

来冬

一沃

六景地巻

六景地巻

山ありや好しなり 智の系

—— かりあふはるはのつら 貞哉

—— や時を初めよのつらけ

—— 此頃や日初れ去る 一花

—— 此頃もはれ去るれ

—— 此頃も川町 一花

—— も遊れしころゆきん

—— 此頃も河の目 二松

—— 此頃もきつやさるは

—— 此頃も 乗山

—— 此頃もはるや鳥の

—— 此頃もつれ 柳枝

—— 此頃もはる

浪のしるし 二花

鶯の如くはらばらなむらさき

たのしみはつらきもなほおぼしき
玉春

川にさすもてあはれん磯のさ

しやゆふと一羽はうぬなり
東林

お月やまもそしれはし

ちよとやもたふはる春か
三六

鶯の如くはらばらなむらさき

番の如くはらばらなむらさき
晴霞

侍人の如くはらばらなむらさき

鶯の如くはらばらなむらさき
来冬

鶯の如くはらばらなむらさき

鶯の如くはらばらなむらさき
一六

川にさすもてあはれん磯のさ

もあはれん磯のさ
貞茂

鳴るや波の音 石松の舟

一 舟の音 浪の音

二

浪の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

一 芝

舟の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

二 松

村の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

栗山

舟の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

柳枝

舟の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

舟の音 舟の音 舟の音

玉春

京師出

京師出

京師出

京師出

京師出

京師出

京師出

夕の月影をくはく門田哉

東林

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

晴
手
段

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

来
る

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

夕の月影をくはく門田哉

あきの月しはま〜樂露不

梅屋はよきるはらうむけられ 一芝

ゆけれはらうあふりはれ

村雀のさりとえんふりれれ 二松

ふけり〜かきしん

来〜此はまきまき 東山

鶴やあまが息をけり 下

乃此窟〜たする散 柳枝

世教のつらき

梅屋はよきるはらうむけられ 二

ふ〜は照ち〜つれか

ふ〜は照ち〜つれか 玉春

〜は照ち〜つれか

〜は照ち〜つれか 東山

六
京地

松の枝まじりて知らず
いづれは松の影を
こぼす

二

いづれは松の影を
こぼす

一竹の影を
こぼす

晴霞

いづれは松の影を
こぼす

清濁の影を
こぼす

枯柳の影を
こぼす

いづれは松の影を
こぼす

行方(考)の影を
こぼす

貞秋

いづれは松の影を
こぼす

いづれは松の影を
こぼす

いづれは松の影を
こぼす

六

本
子

子
月
一
可
信

子
子



喜 如 也
あ ね ぶ

子 招 風
き 月

紅印

Handwritten cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten cursive script, possibly a signature or name.

Handwritten cursive script, possibly a signature or name.

天柳枝

共意

地晴霞

共意

共意
木